

OSCE 担当者からみた看護学士課程 OSCE の運営上の評価と課題

Evaluation and Subject for Objective Structured Clinical Examination (OSCE) in the Bachelor of Nursing Course

滝下幸栄*¹、高尾憲司*¹、山縣恵美*¹、佐伯良子*¹、室田昌子*¹
山本容子*¹、橋本颯子*²、占部美恵*¹、岡山寧子*¹
* 1 京都府立医科大学 * 2 奈良県立医科大学

【研究目的】

看護基礎教育における看護実践能力の育成と評価を目的として、大学教員と病院の現任教育者が協働して OSCE を行った。その運営上の課題について検討した。

【研究方法】

調査時期は 2010 年 11 月～2011 年 11 月。調査対象は看護学士課程 4 年生に向けた OSCE の評価者、模擬患者、運営者 55 名である。調査方法は OSCE 終了後に自己記入式の質問紙を配布した。

調査項目は OSCE 参画による自己の業務への参考度、OSCE の有効性、OSCE 内容と運営に関する評価、OSCE の改善点と今後の課題等であり、5 段階評価および自由記述で尋ねた。分析は基本統計量を算出したほか、記述内容を意味の類似性に従いカテゴリー化した。

倫理的配慮として質問紙は無記名とし、対象者の同意を得て調査した。

【OSCE 内容と構成】

OSCE 課題は複数受け持ち患者への対応を求めた多重的状況における看護実践を問う内容とした。場所は実習室または病棟の空き室を利用した。OSCE の構成は実施 15 分、フィードバック 9 分である。評価者は、大学教員と病院の現任教育者（師長、副師長）であり、ステーションごとに 1 名ずつ配置した。模擬患者役は大学院生が行った。

【結果】

有効回答が得られた 54 名（98.2%）を分析対象とした。属性は大学教員 21 名、現任教育者 15 名、大学院生 12 名、不明 6 名であった。

1. 自己の業務への参考度：53.8%が非常に参考になるとしていた。具体的には、自己の看護を振り返る機会や教育実践の参考、教育方法・方略を学ぶ機会になるとしていた。
2. OSCE の有効性：64.8%が大変有効であるとしており、その理由として学生の学習意欲を喚起する機会や自己点検を促す機会、実践的な学習の機会になるとしていた。
3. OSCE 内容と運営に関する評価：53.7%が大変よいと評価していた。その理由として、機能的な評価仕様や適切なステーション環境等 OSCE デザイン運営に関する肯定的評価がみられた他、学習・評価機会としての機能や学生の取り組み姿勢、相互作用的效果に関する肯定的な評価がみられた。
4. OSCE の改善点及び今後の課題：よりリアリティのある環境設定の必要性や受験しやすい環境の準備等ステーション環境の改善点に関する指摘や、時間切迫の改善、運営精度の向上、アクシデント時の対応準備等、余裕ある運営への提言もみられた。また、明快な課題及びシナリオの提示や無理のない模擬患者役割の設定や柔軟性のある課題・評価視点の設計、教育実践と OSCE の整合性検討、多様な OSCE の準備等に関する指摘もあった。

【結論】

OSCE 評価者側からの見た運営上の評価では、概ね高い肯定的評価を得ていたが、より臨床場面に近い形での環境準備や余裕のある時間管理、学生が戸惑わない課題や運営の準備等、多くの改善点があることが明らかとなった。

本報告は文部科学省平成 21 年度助成事業「看護職キャリアシステム構築プラン」の一部である。